

研究・調査報告書

報告書番号	担当
372	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Clustering of Risk Factors for Coronary Heart Disease: The Longitudinal Relationship with Lifestyle 冠動脈疾患の危険因子の集積：生活習慣との長期的関連	
執筆者 Jos WR Twisk, Han CG Kemper, William Van Mechelen et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Ann Epidemiology 2001;11:157-165	
キーワード 冠動脈疾患、疫学、追跡調査、生活習慣、危険因子	
要 旨 (目的) 冠動脈疾患危険因子の集積があるかどうか、また、生活習慣指標（食事摂取、日常身体活動量、喫煙行動、アルコール摂取）と冠動脈疾患危険因子集積スコアとの長期的な関連について調査することである。 (方法) 冠動脈疾患危険因子集積スコアは総コレステロール・HDL コレステロール比 (TC:HDL 比)、平均上腕血圧値 (MABP)、体脂肪量 (特定の4ヶ所の皮下脂肪厚の和; SSF)、心肺機能 (VO2-max) のうち、ハイリスクな四分位に属するものの数と定義した。このデータは、アムステルダム成育保健研究という、思春期や若年成人を含む対象者について15年以上にわたって同一人物に6回繰返し調査を行った長期観察研究を用いた (n=181、初回平均年齢13.1歳、6回調査時平均年齢27.1歳)。 (結果) 集積がみられたのは、TC:HDL 比、SSF、VO2-max であった。MABP は他の冠動脈疾患危険因子と有意な関連は見られなかった。日常身体活動量とアルコール消費 (男性だけ) は両方とも危険因子群スコアと逆の関連がみられた。他の生活習慣指標と危険因子群スコアで有意な関連はみられなかった。 (結論) 181人の思春期や若年成人に関するアムステルダム成育保健研究では、日常身体活動量とアルコール消費が冠動脈疾患危険因子の予防と関連がみられた。	